令和８年度第１回高知県産業振興計画フォローアップ委員会水産業部会 次第

日時：令和８年 10 月 27 日（火）14:00～16:00
場所：高知共済会館 ３階 桜

１　開会

２ 部会員紹介

３ 水産振興部長あいさつ

４ 部会長選出

５ 議事
（１）第５期産業振興計画＜水産業分野＞の令和８年度上半期の進捗状況及び強化の方向性について

６　閉会

〈配付資料〉
【資料１】第５期産業振興計画＜水産業分野＞の令和８年度上半期の進捗状況及び強化の方向性

その他配布物
・委員名簿
・第５期高知県産業振興計画　ＰＲパンフレット　等

令和8年度高知県産業振興計画フォローアップ委員会水産業部会委員名簿

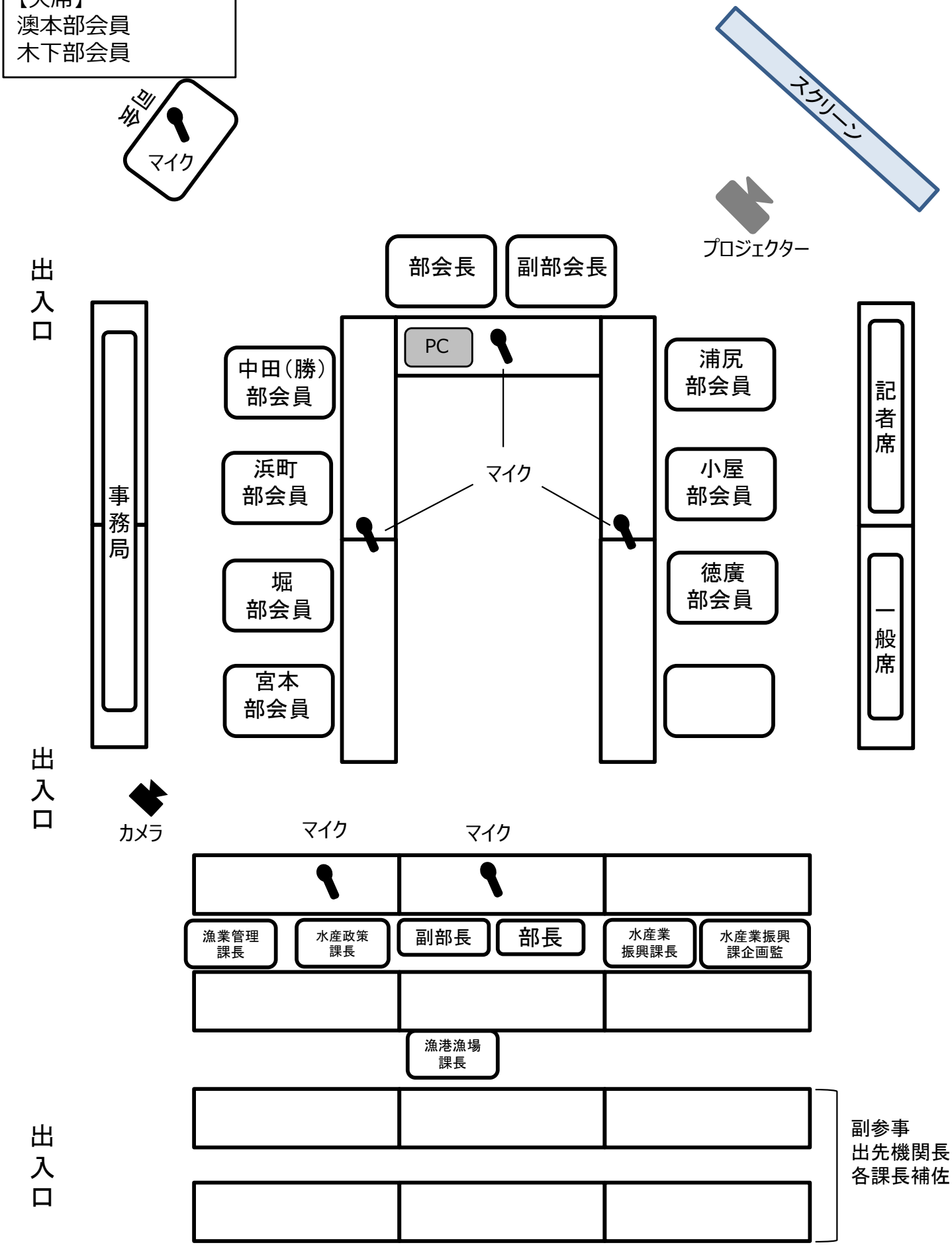
（敬称略・五十音順）

氏名	所属	役職
浦尻　和伸	すくも湾漁業協同組合	代表理事組合長
澳本　健也	高知県漁業協同組合	代表理事組合長
木下　清	奈半利町漁業協同組合	代表理事組合長
小屋　沙綾佳	株式会社小島水産	課長
徳廣　好彦	高知中央市場鮮魚仲卸協同組合	代表理事
中田　衣吏子	与力水産株式会社	部長
中田　勝淑	高知かつお漁業協同組合	理事
浜町　明恵	有限会社土佐佐賀産直出荷組合	代表取締役
堀　美菜	国立大学法人高知大学	准教授
宮本　貴光	高知県水産物産地買受人連絡協議会	会長

令和8年度第1回高知県産業振興計画フォローアップ委員会水産業部会

【オンライン】
中田（衣）部会員
【欠席】
澳本部会員
木下部会員

日時：令和8年10月27日（火）14:00～16:00
場所：高知共済会館 桜



水産業分野の施策の展開　～ 若者が地域で稼げる魅力的な水産業 ～

資料１

目指す姿

① デジタル技術等の活用により、環境や社会の変化に強く安定した所得が得られる "持続可能な" 水産業
② 県内のみならず、県外、海外への県産水産物の販路が確立され、誰もが地産外商にチャレンジできる "稼げる" 水産業
③ 労働環境の改善により、多様な人材が活躍できる "働きやすい" 水産業

⟹ **「若者が地域で稼げる魅力的な水産業」の実現**

分野を代表する目標

漁業生産額(宝石サンゴを除く)	出発点（R3）451億円	⇒	現状（R6）585億円	⇒ R8 515億円	⇒ 4年後（R9）555億円	⇒ 10年後（R15）585億円
漁業生産量(宝石サンゴを除く)	出発点（R4）6.3万トン	⇒	現状（R6）7.7万トン	⇒ R8 8.2万トン	⇒ 4年後（R9）8.4万トン	⇒ 10年後（R15）8.8万トン
水産加工出荷額	出発点（R3）224億円	⇒	現状（R6）265億円	⇒ R8 288億円	⇒ 4年後（R9）295億円	⇒ 10年後（R15）313億円

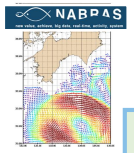
「地産」の強化

柱１　漁業生産の構造改革

生産性の向上や生産量の増大に向けた取り組みを推進！

（１）高知マリンイノベーションの推進

拡 ① 情報発信システム「NABRAS」の運用と機能強化
② リスク対策につながる予測手法の開発（二枚潮、急潮、赤潮）
③ 利益シミュレーションツールの機能強化
拡 ④ メジカ漁場予測システムの運用
⑤ 黒潮牧場の高機能化
⑥ 市場のスマート化の着実な推進
拡 ⑦ 生産性向上につながるデジタル機器等の導入支援



（２）養殖業の振興

拡 ① 既存漁場の再編や新規漁場の確保による生産拡大
② 陸上養殖の推進による生産拡大
新 ③ 経営戦略の策定支援による経営力の向上
拡 ④ デジタル技術の導入等による生産性の向上
新 ⑤ 高水温・赤潮等のリスク対策による経営の安定化

（３）漁船漁業の振興

① 事業戦略のフォローアップによる経営力の向上（かつお・まぐろ漁業、定置網漁業）
② マルチ漁業化の推進による不漁等の影響を受けにくい漁業への転換
③ 漁船・漁具等の設備投資への支援



柱２　市場対応力のある産地加工体制の強化

産地加工の拡大と雇用の場を創出！

（１）加工施設の立地促進や機能等の強化

① 輸出に対応した加工施設の立地支援
② 輸出に適した加工用原魚の確保
③ 加工施設の機能強化や衛生管理の高度化



（２）加工関連産業の強化

① 加工用原料や製品の保管に必要な冷凍保管ビジネスの強化

漁業生産額や加工出荷額を安定的に確保！

「外商」の強化

柱３　流通・販売の強化

大都市圏や海外への外商活動を強化！

（１）外商の拡大

拡 ①「高知家の魚応援の店」とのネットワークを活用した外商活動の強化
② 卸売市場関係者のネットワークを活かした取引の拡大
③ 商談会等への出展による販路拡大を支援
新 ④ 養殖業者と加工業者が連携した販売拡大や情報発信を支援



（２）輸出の拡大

① 水産物輸出促進コーディネーター等のネットワークを活用した販路開拓・拡大
拡 ② 国際見本市への出展や賞味会の開催による販路の開拓・拡大
新 ③ 国内商社等の産地招へいやオンライン商談によるマッチング機会の拡大
新 ④ 海外量販店等での高知フェアの開催による販売拡大



（３）地域資源を活用した付加価値の創出

① あゆを活用した地域活性化の取り組みの推進



多様な人材が参入！経営体が維持・安定！

好循環を生み出し拡大再生産へ！

漁業所得が向上！

成長を支える取組の強化

柱４　担い手の確保・育成

新規就業者の確保や育成を支援！

（１）新規就業者の確保・育成

拡 ① 県外の専門学校等や県内高校での就業セミナーの開催
拡 ② 県内外の就業フェアへの参加と効果的なデジタルマーケティングの実施
新 ③ 本県への就業意欲向上を目指した漁業体験ツアーの実施
④ 就業希望者を対象とした短期・長期研修等の実施

（２）多様な人材の確保

拡 ① 若者や女性が就業しやすい漁業への転換に向けた取り組みの推進
② 外国人材の受け入れの推進
③ 障害者等の生きがいや雇用の場の確保に向けた水福連携の推進



経営の安定と労働環境の整備を支援！

（３）魅力ある職場づくりの支援

① 若者、女性等の多様な人材が参入・定着しやすい環境整備
② 労働環境等の改善に向けた専門家の派遣等の支援
③ 法人化に向けた支援
新 ④ 経営戦略の策定支援による経営力の向上（養殖業）（再掲）
拡 ⑤ 高知マリンイノベーションの推進による操業の効率化（再掲）



第５期産業振興計画　取り組みの強化の方向性　【水産業分野　1／4】

◆分野を代表する目標：漁業生産額（※）、漁業生産量（※）、水産加工出荷額

（※）宝石サンゴを除く

漁業生産額（宝石サンゴを除く）　単位：億円

	R3（出発点）	R4	R5	R6	R7	R8	R9
目　標	486	515	520	477	487	515	555
実　績	451	475	598	585	–		–
達成度	B	B	S	–	R9年3月公表予定		–

漁業生産量（宝石サンゴを除く）　単位：万t

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
目　標	–	–	–	–	8.0	8.2	8.4
実　績	8.3	6.3	8.0	7.7	7.2（速報）	–	–
達成度	–	–	–	–	確報値はR9年２月公表予定		–

水産加工出荷額　単位：億円

	R3（出発点）	R4	R5	R6	R7	R8	R9
目　標	265	268	270	274	278	288	295
実　績	224	249	245	265	–	–	–
達成度	C	B	B	B	R9年7月頃公表予定		–

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率　70%未満
–	達成度の判断が困難なもの

◆分野を代表する目標の達成見込み

○漁業生産額及び漁業生産量は、海況の変化や資源量の減少等の環境的要因により変動している。漁業生産額は、カツオ・マグロ類が高単価であったことや、養殖魚の生産量、単価ともに高水準であったことから、R7年は目標値を上回る見込みであり、R8年もカツオ類や養殖魚の高単価が続いていること等から、目標値に近い実績となる見込みである。[図１]

○水産加工出荷額は、加工施設の整備が進んだことから近年は高い水準を維持しているものの、加工用原料の高騰により、R7及びR8年は目標を下回る見込み。[図２]

◆施策の強化ポイント

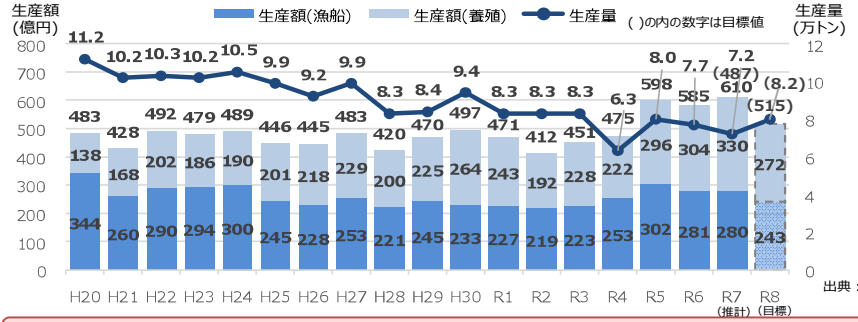
①生産性の向上や生産量拡大に向けた取り組みを推進
・デジタル化の推進や海況などの環境変化に対応した生産性向上や定置網、養殖における未利用漁場の活用を支援

②大都市圏や海外への外商活動を強化
・さらなる中規模チェーンや東海エリアへの事業展開や海外バイヤーの招へい等による販路開拓を支援

③担い手の確保・育成の強化
・多様な人材（若者や女性、外国人）が働きやすい環境づくりに向けた設備導入等を支援

【生産】［図１］漁業生産額（※）及び生産量（※）の年次推移

（※）宝石サンゴを除く

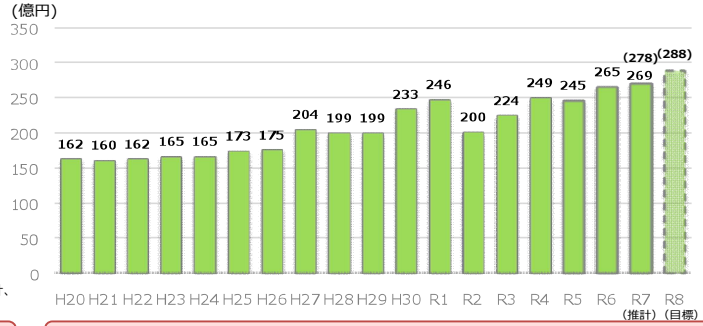


出典：農林水産統計、県資料

海況変化等の影響により生産量は変動。生産額は単価の上昇により、R5年以降は600億円前後で推移。

【加工】［図２］水産加工出荷額の年次推移

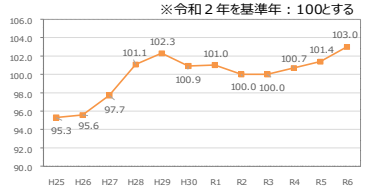
( )の内の数字は目標値



近年は高い水準であるものの、加工用原料の高騰により、R6年以降は微増で推移する見込み。

［参考］高知県鉱工業生産指数（食料品工業）の推移

※令和２年を基準年：100とする

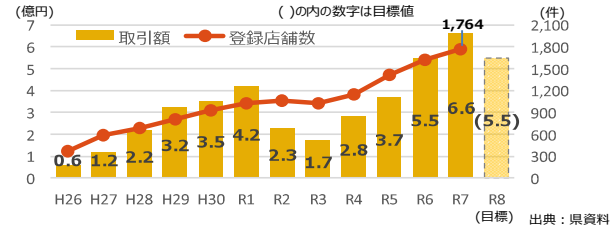


※「高知県鉱工業生産指数」とは、鉱工業製品を生産する県内の事業所における生産活動（生産量）を指数化したもの

出典：高知県工業統計調査結果及び 補完調査、経済センサス、経済構造実態調査

【流通・販売】

［図３］「高知家の魚応援の店」の登録店舗数と取引額の推移

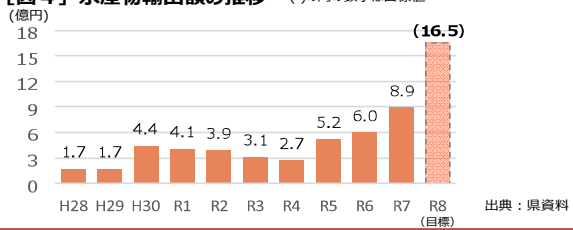


出典：県資料

飲食チェーン店等への取組強化によって登録店舗数・年間取引額は増加傾向であり、R7の取引額は過去最高、R8の目標額も達成見込みである。また、中山間地域でも同様な傾向となっている。

［図４］水産物輸出額の推移

( )の内の数字は目標値



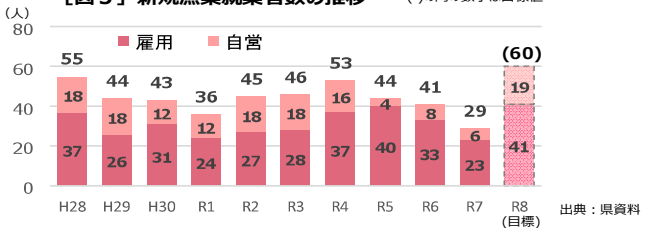
出典：県資料

輸出拡大の取組強化により、Ｒ７の輸出額は過去最高となったが、大規模市場であった中国の輸入停止措置により目標達成は難しい状況にある。また、中山間地域でも、同様な傾向となっている。

【担い手】

［図５］新規漁業就業者数の推移

( )の内の数字は目標値



出典：県資料

自営型漁業では近年の不漁等による経営不安、雇用型漁業では外国人材の増加等を背景に新規就業者数が低迷している。なお、定着率は雇用型に比べ自営型が高い傾向にある。また、中山間地域においても新規就業者数、定着率は同様な傾向となっている。

第５期産業振興計画　取り組みの強化の方向性 【水産業分野　２／４】

令和８年度上半期の進捗状況

（１）高知マリンイノベーションの推進

⇒鮮魚の県内市場取扱額
88億円(目標)→60億円(R8.8月現在)

①情報発信システム「NABRAS」の運用と機能強化
・メジカ漁場予測システムの運用を開始（6/2～）
・養殖漁場の環境情報発信機能や水揚げ情報発信機能の運用開始に向け準備中

②赤潮予測手法の開発
・ 開発した予測手法による予測結果の発出
浦ノ内湾４回・野見湾１回・宿毛湾１回：計６回
うち、マニュアル予測４回、AI予測（浦ノ内湾のみ）２回
※マニュアル予測は全て的中、AI予測は１回的中せず

③利益シミュレーションツールの機能強化
・ツール活用者の利用状況のヒアリングを実施
（21経営体のうち11経営体, R8.8月時点）
・若手漁業者とツール活用に関する意見交換を実施（２経営体）
・入力の省力化や直近の市況情報参照機能など、漁業者にツールを普及するために必要な機能強化について、民間企業および高知県漁協との協議を実施

④メジカ漁場予測システムの運用
・メジカ漁場予測システムの運用を開始（6/2～）（再掲）
・システムの精度向上に必要なデータ提供船を確保
（年度当初　３隻→ ７隻※R8.8時点）

⑤市場のスマート化の着実な推進
【土佐清水地域】
・釣り漁業（キンメ漁）で電子入札の導入が完了（8月）
【その他の地域】
電子入札：高岡(室戸)でデモ、加領郷で導入が完了（8月）
自動計量：佐喜浜、椎名、三津（室戸）で導入に向けた環境整備工事を実施（9月）

⑥生産性向上につながるデジタル機器等の導入支援
・省エネ機器や飼料削減機器の整備を支援
（補助金採択件数：５件）

課題

（１）高知マリンイノベーションの推進

①情報発信システム「NABRAS」の運用と機能強化
・発信する情報の効果や機能強化の方向性を検討するためには、正確な利用漁業者数や漁業種類の把握が必要

②赤潮予測手法の開発
・AI予測の精度向上と浦ノ内湾以外でのAI予測手法を開発するためには、予測に用いるデータの蓄積が必要

③利益シミュレーションツールの機能強化
・民間企業が販売している情報公開システムにツール機能を組み込むことで、普及に必要な機能強化が可能であることから、製品化に向けた仕様の検討や費用対効果の検証が必要

④メジカ漁場予測システムの開発
・予測精度の検証や精度の向上には、さらなる漁獲データの蓄積が必要

⑤市場のスマート化の着実な推進
・市場のスマート化を進めていくためには、市場関係者の意識醸成やトラブル対応などのきめ細やかなサポートが必要

⑥生産性向上につながるデジタル機器等の導入支援
・生産性の向上を図るためには、さらなる機器の導入促進が必要

強化の方向性

ポイント１　**デジタル化のさらなる推進により生産性を向上！**

（１）高知マリンイノベーションの推進

①情報発信システム「NABRAS」の運用と機能強化
＜令和８年度下半期の取り組み＞
・養殖漁場の環境情報及び水揚げ情報発信機能の運用開始
・NABRASでの回答必須アンケートによる利用漁業者数・漁業種類の把握
＜令和９年度の取り組み＞
・漁業者等のニーズに基づく改修を実施

②赤潮予測手法の開発
＜令和８年度下半期の取り組み・令和９年度の取り組み＞
・ 環境調査等によるAI予測に必要なデータ取得の継続

③利益シミュレーションツールの機能強化
＜令和８年度下半期・令和９年度の取り組み＞
・ 若手漁業者へのツールの普及活動の継続
・ ツールを組み込んだ情報公開システムの仕様の検討と導入に向けた支援

④メジカ漁場予測システムの開発
＜令和８年度下半期の取り組み・令和９年度の取り組み＞
・データ提供船の漁獲データをさらに蓄積し、予測精度の検証と向上に取り組む

⑤市場のスマート化の着実な推進
＜令和８年度下半期の取り組み＞
・土佐清水地域：釣り漁業の電子入札への完全移行に向けた支援
・その他の地域：芸東及び中芸地域での自動計量及び一部漁法での電子入札の導入に向けた支援
＜令和９年度の取り組み＞
・芸東及び中芸地域でのスマート化の完了に向けた支援
・市場のスマート化のさらなる横展開の推進

⑥生産性向上につながるデジタル機器等の導入支援
＜令和８年度下半期の取り組み＞
・デジタル機器等の導入促進に向けた掘り起こしの実施
＜令和９年度の取り組み＞
・整備効果に関する漁業者向けの勉強会の開催による横展開

第５期産業振興計画　取り組みの強化の方向性 【水産業分野　３／４】

令和８年度上半期の進捗状況

（２）養殖業の振興

①規模拡大・新規参入業者の誘致、生産拡大

・規模拡大・新規参入の意向がある事業者への誘致活動（企業訪問、企業立地フェアや個別打合せの実施）

②陸上養殖の推進による生産拡大

・調査結果を活用した水産関連企業等の誘致活動（企業訪問、企業立地フェアや個別打合せの実施）

③経営戦略の策定支援による経営力の向上

・収益増加や労働条件の改善等も含めた総合的な経営戦略の策定について働きかけを実施（５経営体）

④デジタル技術の導入等による生産性の向上

・飼料削減機器の整備を支援（補助金採択件数：３件（総数５件の内数））（再掲）

⑤高水温・赤潮等のリスク対策による経営の安定化

・テレメーターブイによる漁場環境情報のリアルタイム発信の開始

・高水温に強い新たな養殖対象魚種（センネンダイ）の飼育試験を実施中

・生産拡大や高水温対策等につながる漁場再編計画の策定を支援

（３）漁船漁業の振興

①事業戦略の実践支援による経営力の向上

・事業戦略の実践支援が終了した経営体のﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟを実施
→かつお・まぐろ：９経営体、定置網：１経営体

②マルチ漁業化の推進

・支援制度（新規漁労技術習得研修、船体改修や機器の整備）の周知と募集を実施（３名活用予定）

（４）加工施設の立地促進や機能等の強化

○加工施設の機能強化や衛生管理の高度化

・新たに海外HACCPの取得を検討している事業者に対して、補助事業の活用を提案

課題

（２）養殖業の振興

①規模拡大・新規参入業者の誘致、生産拡大

・物価の高騰が続いており、現時点での規模拡大・新規参入が難しい状況であることから、継続的な声かけが必要

②陸上養殖の推進による生産拡大

・誘致を促進するためには、設備投資への支援制度の創設が必要

③経営戦略の策定支援による経営力の向上

・戦略策定に向けては、経営改善や事業継続など具体的なメリットの明示が必要

④デジタル技術の導入等による生産性の向上

・生産性の向上を図るためには、さらなる機器の導入促進が必要（再掲）

⑤高水温・赤潮等のリスク対策による経営の安定化

・被害の軽減には、発信を開始した情報の有効的な活用が必要

・価格変動や疾病リスクに対応するためには、新たな養殖対象種が複数必要

・計画に基づき、速やかに漁場再編に取り組むことが必要

（３）漁船漁業の振興

①事業戦略の実践支援による経営力の向上

・近年の社会情勢の変化等に対応するためには、事業戦略の見直しが必要

②マルチ漁業化の推進

・機器整備等に係る資金繰りが厳しい漁業者がいるものの、マルチ漁業化を希望する声が多いことから、さらなる制度の周知と支援が必要

（４）加工関連産業の強化

○加工施設の機能強化や衛生管理の高度化

・さらなる輸出の拡大に向けては、輸出先から求められているASC認証などの高度な国際認証が必要

強化の方向性

ポイント２　計画的な生産が可能な養殖業の成長産業化を推進！

（２）養殖業の振興

①規模拡大・新規参入業者の誘致、生産拡大

＜令和８年度下半期・令和９年度の取り組み＞

・企業訪問、企業立地フェア等への参加の継続

②陸上養殖の推進

＜令和８年度下半期・令和９年度の取り組み＞

・企業訪問、企業立地フェア等への参加の継続

・設備投資に関する支援制度の創設の検討

③経営戦略の策定支援による経営力の向上

＜令和８年度下半期の取り組み・令和９年度の取り組み＞

・養殖事業者と経営戦略に関する意見交換を実施

④デジタル技術の導入等による生産性の向上

＜令和８年度下半期＞

・飼料削減機器等の導入促進に向けた事業者の掘り起こし（再掲）

＜令和９年度の取り組み＞

・導入効果に関する勉強会の開催による普及促進

⑤高水温・赤潮等のリスク対策による経営の安定化

＜令和８年度下半期・令和９年度の取り組み＞

・生産者への周知の実施、ブイ情報を活用した新たな赤潮監視体制の検討

・新たな養殖対象種の探索及び飼育試験の継続

＜令和９年度の取り組み＞

・漁業権の設定や補助金の検討等により、漁場再編を支援

ポイント３　漁船漁業の持続的な経営を支援！

（３）漁船漁業の振興

①事業戦略の実践支援による経営力の向上

＜令和８年度下半期・令和９年度の取り組み＞

・ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟの継続により、事業戦略の見直しを支援

②マルチ漁業化の推進

＜令和８年度下半期・令和９年度の取り組み＞

・マルチ漁業化に向けた支援と周知を継続

ポイント４　産地加工の拡大と雇用の場を創出！

（４）加工関連産業の強化

○加工施設の機能強化や衛生管理の高度化

＜令和９年度の取り組み＞

・国事業の活用等による国際認証基準（ASC、MSC等）の取得を支援

第５期産業振興計画　取り組みの強化の方向性 【水産業分野　４／４】

令和８年度上半期の進捗状況

（５）外商の拡大
⇒「応援の店」への県内参画事業者の出荷額
5.5億円(目標)→4.2億円(R8.6月現在)

①「高知家の魚応援の店」とのネットワークを活用した外商活動の強化
・オンライン商談会の実施（6月:県内参画事業者15社、応援の店25社、91商談実施）
・営業力強化研修の実施（３回:28事業者参加）

②養殖事業者と加工業者が連携した販売拡大や情報発信を支援
・産地から量販店等に養殖魚を直接販売するため、受託業者が産地視察と養殖事業者へのヒアリングを実施し、産地招へいについて量販店等と調整中

（６）輸出の拡大
・高知県水産物輸出促進協議会による国際見本市への出展や賞味会の開催を支援（見本市:5回、賞味会:1回 ※R8.9時点）
・水産物輸出促進コーディネーターのネットワークを活用し、新たな販路として期待されるタイのニーズに合わせた製品開発を支援
・海外量販店でのフェアの開催や国外商社の産地招へいを実施（7月:シンガポール事業者、8月:台湾事業者）

（７）担い手の確保・育成
⇒新規就業者数　60名(目標)→21名(R8.6月現在)
（うち若年女性　4名(目標)→１名(R8.6月現在)）

①新規就業者の確保・育成
・専門学校等での就業セミナー開催（東京2校、関西6校、福岡２校 計246名　※R8.8時点）
・県独自の就業フェア(大阪)の開催（9月:117人来場）
・デジタルマーケティングによる就業フェアや漁業就業支援センターHPへの誘導（HP表示件数：7月 5,336→8月 17,618）
・就業意欲向上を目指した漁業体験ツアーの実施（1回:10名）
・就業希望者を対象とした短期・長期研修の実施（短期:23名25回、長期:3名 ※R8.8時点）

②多様な人材の確保
・女性主体の操業モデル構築(定置)に取り組む１事業者を決定
・関係者と意見交換を実施し、１地区を第一候補として絞り込み

課題

（５）外商の拡大

①「高知家の魚応援の店」とのネットワークを活用した外商活動の強化
・県内事業者全体の取引額の拡大に向けた販売先の選定が必要

②養殖事業者と加工業者が連携した販売拡大や情報発信を支援
・全国的にブリやマダイが品薄であり、産地は既存商流での販売を優先していることから、量販店等との調整が難航

（６）輸出の拡大
・東南アジア諸国等への更なる輸出の拡大に向けては、既存の商流を活用した取引品目の更なる拡大や新規取引先の開拓等が必要

（７）担い手の確保・育成

①新規就業者の確保・育成
・セミナーを開催した専門学校からの短期研修者が一定数あることから、開催校の拡充が必要
・デジタルマーケティングでは東海地方のクリック率が高かったものの、セミナーやフェアの開催対象地域としていない

②多様な人材の確保
・候補地の漁場調査や参入に向けた漁船等の取得、地元関係者の理解醸成などが必要
・操業に向けて人材を確保するためには、働きたいと思える職場環境づくりが必要

強化の方向性

ポイント５　応援の店や卸売市場関係者のﾈｯﾄﾜｰｸを活用した外商強化！

（５）外商の拡大

①「高知家の魚応援の店」とのネットワークを活用した外商活動の強化
＜令和８年度下半期の取り組み＞
・関東・関西に続いて、新たに東海エリアでの販路開拓を推進
＜令和９年度の取り組み＞
・需給バランスが合いやすい中・大規模飲食チェーン等とのマッチングの強化

②養殖事業者と加工業者が連携した販売拡大や情報発信を支援
＜令和８年度下半期の取り組み＞
・供給可能量を踏まえた量販店等とのマッチングを実施
＜令和９年度の取り組み＞
・地産外商公社との連携により量販店向けの販売拡大を支援
・「高知家の魚応援の店」ネットワークを活用した飲食店等へのマッチングを強化

ポイント６　中国に替わる新たな販路開拓による輸出拡大！

（６）輸出の拡大
＜令和８年度下半期の取り組み＞
・さらなる販路開拓や既存商流の取引拡大に向けた支援を継続
＜令和９年度の取り組み＞
・海外バイヤーの招へいによる産地PR及び県内事業者とのネットワークの構築
・海外飲食店でのフェアの開催による新規取引先の開拓とメニューの定番化

ポイント７　若者・女性の就業促進に向けた情報発信を強化！

（７）担い手の確保・育成

①新規就業者の確保・育成
＜令和８年度下半期の取り組み＞
・就業セミナーや就業フェア参加者に対する漁業体験ツアーへの勧誘
＜令和９年度の取り組み＞
・セミナー対象にデジタルマーケティングのクリック率が高い東海地方を追加

②多様な人材の確保
＜令和８年度下半期・令和９年度の取り組み＞
・地元関係者との意見交換の実施や漁具・漁船の取得等を支援
＜令和９年度の取り組み＞
・多様な人材（若者や女性、外国人）が働きやすい環境整備を支援

2　外商拡大プロジェクト【水産業分野】

【１】Ｒ８年度進捗状況

目　標	出発点	直近値	Ｒ８年度到達目標	Ｒ８年度上半期の実績値	評価	現状分析及び目標達成の見通し	目標達成に向けた対応方針
関西圏の高知家の魚応援の店への販売額 (年間)	1.1億円 (R4)	3.2億円 (R7)	2.2億円	1.7億円 (R8.1～6月)	S	・６月末時点で1.7億円であり、目標2.2億円に対して77%の進捗状況となっており、目標を達成する見込み	・地産外商公社や市町村と連携し、バイヤーニーズと県内供給量の需給バランスが合いやすい中規模飲食チェーン店等とのマッチング強化
関西圏の卸売市場関係者等を経由した水産物の輸出額 (年間)	0.3億円 (R4)	0.1億円 (R6)	2.0億円	0.1億円 (R8.1～7月)	D	・関西圏の卸売市場関係者等を経由した水産物の輸出額は、中国の水産物輸入停止措置の影響を受け、目標達成は困難な状況	・関西事業者との連携による東南アジア等での賞味会を通じた海外飲食店との関係性の構築

【２】Ｒ９年度強化ポイント

取組を通じた課題

１　関西圏の高知家の魚応援の店への販売拡大（年間）

○県産水産物の取引意欲を高めるため、「高知家の魚応援の店制度」の認知度向上のための情報発信が必要

○応援の店への販売額が少額な県内事業者を含めて、県内事業者全体の取引額の拡大に向けたターゲット選定が必要

２　関西圏の卸売市場関係者等を経由した水産物の輸出額(年間)

○輸出額の拡大に向けて、中国に代わる輸出ルートの構築や関西圏の事業者と県内事業者とのさらなる連携強化が必要

R9年度に向けた強化策

１　関西圏の高知家の魚応援の店への販売拡大（年間）

（１）関連部局と連携し、関西圏での「高知家の魚応援の店制度」の情報発信を強化

（２）卸売会社と連携し、バイヤーニーズと県内供給量の需給バランスが合いやすい中規模飲食チェーン、および大規模飲食チェーンの関西圏の店舗等をターゲットとしたマッチング強化

２　関西圏の卸売市場関係者等を経由した水産物の輸出額(年間)

（１）日本産水産物の輸入を停止している中国に代わる新たな輸出ルートの構築

（２）関西の事業者の商流を生かした新たな販路の開拓

≫ バイヤーニーズを考慮したマッチング強化